

市町村教育委員会

調査回答数:43市町村教育委員会

2 子どもの読書に関わる外部機関

等が入った推進組織を設けていますか

設けている	28%
設けていない	72%
無回答	0%
無効回答	0%

(2) 外部機関等が入った推進組織の  
主な活動内容(複数回答可)

フォーラム等の開催	17%
情報の収集と発信	50%
読書活動の重要性に係る広報	0%
推進計画の進捗管理	67%
★その他	33%
無回答	0%
無効回答	0%

★ その他(抜粋)

- ・ブックフェスタの開催
- ・読書感想文コンクール
- ・子どもと本をつなぐ地域交流会の開催

●外部機関等が入った推進組織の  
活動内容ごとの年間実施回数

フォーラム等の開催

1回	100%
2回	0%
3回	0%
4回	0%
5回以上	0%

情報の収集と発信

1回	67%
2回	17%
3回	0%
4回	17%
5回以上	0%

推進計画の進捗管理

記述なし

3 子どもの読書に関わる庁内各課の

連絡会等を行っていますか

行っている	40%
行っていない	60%
無回答	0%
無効回答	0%

連絡会等の年間実施回数  
(市町村単位)

1回	3
2回	5
3回	1
4回	1
5回以上	2
その他の回答	5
無回答	0

4 図書館司書や司書教諭に対する研修会

ある	33%
ない	65%
無回答	2%
無効回答	0%

(1) 図書館司書や司書教諭に対する  
研修会の年間実施回数  
(市町村単位)

1回	5
2回～3回	1
4回～5回	0
6回～10回	3
11回以上	2
その他の回答	3
無回答	0

(2) 研修会の対象  
(複数回答可)

図書館司書	43%
司書教諭	86%
学校図書館司書	50%
★その他	43%
無回答	0%
無効回答	0%

★ その他(抜粋)

- ・図書館支援員
- ・教諭
- ・学校図書館ボランティア

(3) 研修会の講師  
(複数回答可)

公共図書館の職員	36%
大学の職員	36%
学校の職員	43%
読書ボランティア	7%
★その他	43%
無回答	7%
無効回答	0%

★ その他(抜粋)

- ・指導主事
- ・児童文学の研究者

## 市町村教育委員会

### 自由記述(抜粋)

#### 2 子どもの読書に関わる外部の機関等が入った子どもの読書活動の推進組織を設けていない理由

- ・子どもの読書活動推進計画策定時は、福祉、子育て支援担当課との連携があったが、策定後は実施母体が図書館となっているため。
- ・各関係課が関係団体の意見を聞き、庁内関係課連絡会で報告している。
- ・推進計画策定後に子ども読書活動推進研究会が解散したため。
- ・図書館協議会において関係するボランティア団体からの意見交換が可能のため。
- ・推進計画策定後は各活動時に協力依頼を行なうことで支障がないので。
- ・当市生涯学習審議会が設置されており、子どもの読書活動推進についても審議や提言が行われている。

#### 2-(3) 推進組織を設けることによる効果と運営していくうえでの課題

- ・開催回数が少ないので、企画など全権を任せると、事業の機動性が失われる可能性がある。
- ・推進組織を設けることにより、外部の組織に子どもに対する読書の重要性を認識してもらうことが出来る。
- ・子ども読書活動推進計画の進捗状況について、市全体としての取組みの状況を把握できること。業務多忙のため会議に参加できない委員がいることが課題です。
- ・様々なところで子どもに関わる人たちが、子どもの読書活動の推進について考え、検討する事は図書館だけの考えでなく、広い視野で子どもの読書について取り組むことが出来るため、今までよりもっと子ども自身の状況に沿ったものになっている。
- ・子どもの読書活動について、共通理解が深まるような研修を継続して設定していくこと。
- ・子ども読書活動推進連絡協議会および3つのワーキンググループ(乳幼児、小中学生、障がいのある子どもや外国人の子ども)で多くの方々に関わっていただいているため、多様な取組みを実施することが可能となっている。一方で組織が大きいため、全体的な情報共有や事務作業の効率化が課題となっている。
- ・組織会議への参加に関して、学校の協力が得にくい。

#### 3 子どもの読書に関わる町内各課(社会教育課、学校指導課、子育て支援課等)の連絡会等を行っていない理由

- ・必要に応じて随時、情報交換を行い、連携を進めているため。
- ・図書館職員が学校支援等の連携業務を担い、個々に密接な連絡調整が図れるため、連絡調整等は行っていない。
- ・子ども読書のみに関わる連絡会は設けていないが、「子ども関係機関連絡会議 子育て支援部会」があり、その活動の中での協力体制がある。

#### 3-(3) 連絡会等を行う効果と行ううえでの課題

- ・「子ども読書活動推進計画」に基づき、関係課において施策の実施及び検討を行ったが、その進捗状況の確認を行い、全市的な連携や情報共有を図った。
- ・「子ども読書の日」から始まる子ども読書週間期間中に社会教育施設等子どもが集まる施設で協力して催しを実施することができた。子どもの参加者も増え、お互いの一体感も高まった。
- ・担当者レベルで、行政他部局、住民団体との情報交換が出来るため、各自の活動の状況や図書館としてどのような支援をしていくのかを検討しやすくなってきた。また様々な課題について、共通理解ができるように研修等につなげていける。今後も継続していけるように、図書館からの情報提供等を随時行い、様々な場での読書活動に関われるよう、また研修の場を提供していくことが必要である。
- ・各施設の現状や課題を司書同士が話し合いできる場として効果的である。
- ・子ども読書活動推進連絡会での情報交流の他、「ブックスタート」など、事業に関連する関係部局・関係機関と連絡会をもつことで、取組む事業の充実をはかっている。業務が多忙であるため、連絡会などの日程調整が困難である場合が多いことが課題となっている。

## 市町村教育委員会

### 4 市町村教育委員会が行っている図書館司書や司書教諭等を対象とした研修を行っていない理由

・大阪府立図書館・大阪公共図書館協会・日本図書館協会・(財)大阪府市町村振興協会  
おおさか市町村職員研修研究センター等の研修に参加している。  
・それぞれの施設の司書は1名ずつであり、全員を同時に集めて研修すると、業務に支障が  
出る。必要があれば、府立図書館の研修に参加している。

### 4- (4) 図書館司書や司書教諭等を対象とした研修を行う効果と行ううえでの課題

・参加者の知識・読み聞かせ等の技能の向上が見られた。各校図書館の見学、情報交換に  
より各々の学校図書館の見直しにつながった。学校教育活動における、図書館がはたす  
役割について、認識を深めることができた。  
・公立図書館職員を講師に招く場合、業務との兼務で職員に負担をかけてしまう。  
・学校図書館の充実に向けた工夫やアイデアなど、先進校の事例を知り、司書教諭が自校の  
取組の参考にできた。講師の確保が課題。  
・各学校の図書館において、学校図書館司書全員が交代で、講師となって研修を実施するこ  
とにより、参加意欲や取組みに対する意識の向上が見られた。また、それぞれの学校図書館の  
特色や工夫を知り、自校に生かそうとする姿勢が見られた。  
・他の自治体の学校図書館の取組みや、学校図書館司書の業務(ブックトーク等)に関する  
研修を行うことで、各校での学校図書館運営について見直すことや新しい取組みを効果的に  
取り入れていくことができる。小学校と中学校では取組む内容が違うため、どちらも共通する  
ような研修の設定が難しい。

### 5 「公立図書館と学校との連携」並びに「学校や公立図書館とボランティアとの連携」を進めるための具体的な取組み

・市立図書館と学校図書館司書が年1回交流の機会を持っており、貴重な情報共有の機会と  
なっている。また義務教育課が中心となって、新任学校司書には市立図書館のサービスや  
支援の内容などについての研修の機会があるほか、昨年度については司書教諭を対象とした  
研修も実施した。また学校での読み聞かせボランティアを対象に市立図書館で毎年「学校での  
読み聞かせボランティアバックアップ講座」を実施している。さらに子ども読書活動推進連絡  
協議会と図書館が共催し、市内4エリアでボランティアを対象に実施した「子どもと本をつなぐ  
地域交流会」では学校司書による学校での取組みを報告してもらい、子どもたちの学校での  
読書活動についてボランティアに知ってもらう機会となっている。  
・公立図書館・学校図書館の両司書による司書連携学習会を開催している。  
・4か月児健診などに協力いただいている団体と年1回以上の打ち合わせを実施している  
・ここ数年、学校図書館司書研究会の初回に時間を設定して担当者連絡会を行い、公立図書館の  
方に参加していただいているが、今年度は学校図書館司書研修会に複数回参加していただく  
予定である。また、地域の読書のボランティアの方々の学校図書館司書研修会への参加も  
現在検討中である。  
・図書館職員が定期的に市立小学校に出向き、学校図書整備・読み聞かせ・調べ学習ガイダンス  
等を実施し、児童の読書活動の推進を行っている。また、図書館においてボランティアによる  
お話し会を定期的に実施している。  
・図書館施設と学校図書館主催者会と連携する中で、出前講座(本の修理の仕方、調べ学習の  
進め方等)、出前おはなし会の開催や団体貸出などを実施している。学校においては、「学校支援  
地域本部事業」の一環で、図書ボランティア(無償)との連携がはじまっている。

6 お尋ねした項目以外の特色ある取組み及びその効果

- ・移動図書館の地域フォーラムへの参加により、関係各課やボランティアとの連携が深まった。  
また図書館の広報につながった。
- ・子育て支援課と共催の子育て講座の開催。
- ・図書館において聴覚障がいへの理解促進のためのマンガの収集や、手話によるお話し会を継続実施。市内点字サークルからの寄贈点字絵本の受入・提供など、活字による読書が困難な子どもに、障がいに応じた資料の作成や行事の開催などを通じて、読書の楽しさを伝え広めている。
- ・国民読書年にちなみ、各保育所園、各幼稚園、小中学校の担当者、市立図書館、教育委員会担当者が構成メンバーとなる、「読書eプラン連絡会」を中心に子どもの読書活動をより積極的に推進していく体制をスタートさせた。